

アナグマ

アナグマはタヌキと混同されて、「ムジナ」と呼ばれてひとくりにされる場合がありますが、アナグマはイタチ科でタヌキイヌ科の動物です。また、アナグマを「マミ」と呼ぶ地域もありますが、これは肉が美味しいので「うまみ」からきたという説もあります。

◇アナグマの生態

生活環境	集落に近い雑木林から山地のササや藪林に暮らしている。斜面などに穴を掘って数頭で生活している。夜行性。木登りは得意ではない。
食性	ネズミなどの土壌動物、昆虫、野ネズミ、カエル、果実などを食べる。人家周辺ではゴミや残飯なども食べる。
繁殖	交尾期は4～6月。出産は翌年の3～5月。冬ごもりの間に巣穴の中で2～4子出産。
巣穴	頑丈な爪で穴を掘って生活する。入り口は数個～数十個ある。家族が何代もかけて長い期間をかけて穴をほっていく。

イタチ科

頭胴長:40～60cm 尾長6～12cm 体重:4～15kg

穴を掘って生活するのに適した体をしている。



◇アナグマの被害

農作物被害は、トウモロコシ、スイカ、イチゴ、ブドウ、トマトなどへの食害です。また、人家に侵入して、床下や庭に穴を掘ったりする生活被害もあります。



ブドウへの食害



人家への侵入



人家の庭に掘った穴

◇アナグマの被害対策

① 餌付けになることをしない(餌付けが成功して被害となっている！)

- ・生ゴミや野菜クズを農地や山際にすてない。
～頑丈な堆肥枠を使ったコンポスト等に捨てる～
- ・収穫の終わった野菜や果樹等の残渣を残さない。
～野菜や果樹の味を覚えると、何度も農地へ出てきます～

② 農地を侵入防止柵で囲む

電気柵やワイヤーメッシュ+電線を設置します。

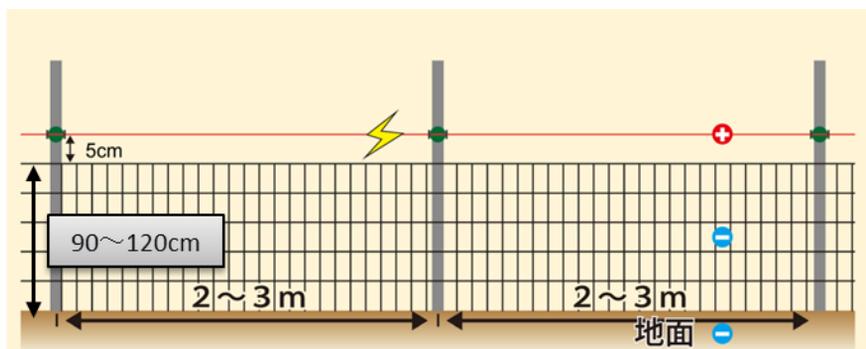
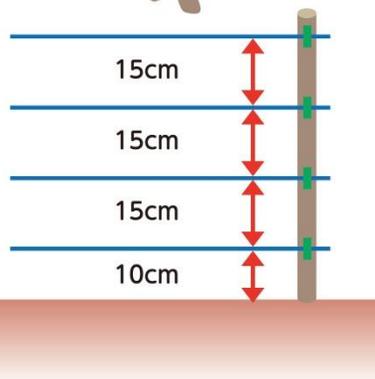
③ 有害捕獲

かごわななどを使って、捕獲(免許と許可が必要)をします。



かごわな

電気柵の設置



ちょっとした マメ知識

昔から食べられていたタヌキ汁は、おもに冬場に脂肪が多くて美味しいアナグマの肉を使っており、貴重なタンパク源でした。また、毛皮は敷皮として利用されていました。近年では利用価値が低下したため、狩猟頭数は大きく減少しました。一方、農作物への被害発生による有害捕獲頭数は200頭程度(H24年度)と多いです。



MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER
島根県 中山間地域研究センター

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207

担当科：鳥獣対策科

問い合わせ先：0854-76-2025 (代表)

E-mail：chusankan@pref.shimane.lg.jp